

ヤブサメ剤の使用法

適用雑草及び使用方法

2017年4月現在の登録内容

1キロ粒剤	作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り使用量	本剤の 使用回数	使用方法
第2008100号 農林水産省登録	移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ	移植直後～ ノビエ3葉期 但し、移植後 30日まで	1kg	1回※	湛水散布
			移植時			田植同時 散布機で施用

※各有効成分を含む農業の総使用回数:ピラクロニル2回以内、ピリミスルファン2回以内、フェノキサスルホン2回以内

500g	作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り使用量	本剤の 使用回数	使用方法
第2008200号 農林水産省登録	移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ コウキヤガラ	移植後3日～ ノビエ2.5葉期 但し、移植後 30日まで	250g	1回※	湛水散布 または 湛水周縁 散布

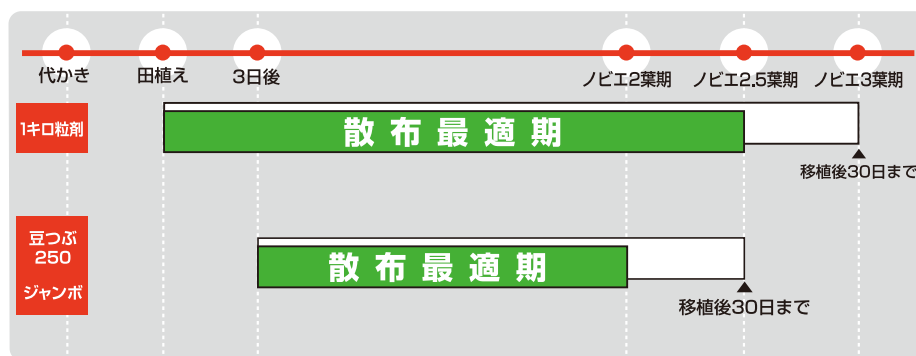
※各有効成分を含む農業の総使用回数:ピラクロニル2回以内、ピリミスルファン2回以内、フェノキサスルホン2回以内

ジャンボ	作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り使用量	本剤の 使用回数	使用方法
第2008100号 農林水産省登録	移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ コウキヤガラ	移植後3日～ ノビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	小包装 (パック) 10個 (250g)	1回※	水田に 小包装 (パック)の まま投げ 入れる

※各有効成分を含む農業の総使用回数:ピラクロニル2回以内、ピリミスルファン2回以内、フェノキサスルホン2回以内

上手な使い方・標準的な使用時期

雑草生育初期での使用が、より効果的です。



●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●防除日誌を記載しましょう。

使用上の注意

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期(豆つぶ250・ジャンボは2.5葉期)までに、時期を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。
- 【1キロ粒剤】ヘラオモダカ、ウリカワ、ミスガヤツリは2葉期まで、ホタルイは3葉期まで、オモダカ、クログワイは発生初期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生初期まで。
- 【豆つぶ250】ヘラオモダカ、ウリカワ、ミスガヤツリは2葉期まで、ホタルイは3葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生初期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生初期まで。
- 【ジャンボ】ヘラオモダカ、ウリカワ、ミスガヤツリは2葉期まで、ホタルイは3葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生初期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生初期まで。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ(豆つぶ250・ジャンボ)は発生期間が長く、遅い発生のもめでは十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後処理剤との組合せで使用してください。
- いくさ栽培予定田では使用しないでください。
- 苗の植付けが均一となるように、代かき及び植付作業はていねいに行ってください。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行ってください。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください(1キロ粒剤)。
- 散布の際は、やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めてください(豆つぶ250・ジャンボ)。
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁に沿って帯状に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください(豆つぶ250)。
- 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください(ジャンボ)。
- 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布をさせ、本田内で水田全面に散布してください(豆つぶ250)。
- 本剤は小包装(パック)のまま10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れてください(ジャンボ)。
- 藻類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になり、部分的な薬害や効果不足を生じるおそれがあるので使用はしないでください(ジャンボ)。
- バックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意してください(ジャンボ)。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさしてください。
 - 砂質土壌の水田及び漏水田(漏水深が2cm/日以上)
 - 軟弱苗を移植した水田
 - 極端な浅植えの水田及び浮き苗の多い水田
 - 種穴の戻りの悪い水田
- 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさしてください。
- 散布後の数日間に暑い高温が続く場合、初期生育が抑制されることがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていません。
- 吸湿性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないように注意して散布してください。濡れた手で扱わないでください。また、開封後は早め使用してください(豆つぶ250)。
- 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないでください。
- 本剤はその殺草特性から、いくさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

安全使用上の注意

- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください(1キロ粒剤)。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください(1キロ粒剤・豆つぶ250)。
- 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、濡れた手で触らないでください(ジャンボ)。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください(1キロ粒剤・豆つぶ250)。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください(1キロ粒剤)。
- 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

本資料は平成29年4月現在の知見に基づいて作成されております。

自然に学び 自然を守る



技術資料



狙った草は外さない!



水稲用 初・中期一発処理除草剤

ヤブサメ[®]

1キロ粒剤・豆つぶ250・ジャンボ

®:クミアイ化学工業(株)の登録商標

殺草スペクトラム

種別名	薬量 (/10a)	ノビエ	カヤツリグサ	ミスアオイ	コナギ	アゼナ類	ミノハコベ	キカシクサ	オオアノメ	ホソバヒメミシハギ	マツバイ	ホタルイ	ウリカワ	ミスガヤツリ	ヘラオモダカ	ヒルムシロ	セリ	オモダカ	クログワイ	コウキヤガラ	シスイ	
ヤブサメ1キロ粒剤	1kg	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヤブサメ豆つぶ250 ヤブサメジャンボ	250g	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ピラクロニル	15g a.i.*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
ピリミスルファン	5g a.i.*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フェノキサスルホン	15g a.i.*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	×	○	△	△	△	-	△	△	△	△	△

表中の ○:著効 ○:有効 △:やや不十分な効果 ×:不十分な効果 ※:評価中 一:評価データなしを示す。

* a.i.:有効成分量 ** オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ(豆つぶ、ジャンボ)については、本剤の1回使用では防除が難しい場合があるので、これらの草種に有効な剤との組み合わせによる体系防除でご使用ください。



ヤブサメの特長・作用性・基本特性



- 1 ノビエに高い効果、長い残効性を示す初・中期一発剤です。
- 2 ピラクロニルにより処理後数日で雑草に枯れ症状が確認できます。
- 3 多年生雑草にも高い効果を示します。

田植同時処理ができます。(1キロ粒剤) WCSマニュアルに掲載されています。(豆つぶ剤、ジャンボ剤)

有効成分の物理化学性

	ピラクロニル	ピリミスルファン	フェノキサスルホン
化学名	1-(3-クロロ-4,5,6,7-テトラヒドロピラゾロ[1,5-a]ピリジン-2-イル)-5-[メチル(プロパ-2-イニル)アミノ]ピラゾール-4-カルボニトリル	(RS)-2'-[(4,6-ジメトキシピリミジン-2-イル)(ヒドロキシ)メチル]-1,1-ジフルオロ-6'-(メトキシメチル)メタンスルホアニリド	3-[(2,5-ジクロロ-4-エトキシベンジル)スルホニル]-4,5-ジヒドロ-5,5-ジメチル-1,2-オキサゾール
構造式			
性状	白色固体	白色固体	白色結晶
融点	93.1~94.6℃	98.8℃	157.6℃
水溶解度	50.1mg/ℓ(20℃)	114mg/ℓ(pH5, 20℃)	0.17mg/ℓ(20℃)

安全性(製剤)

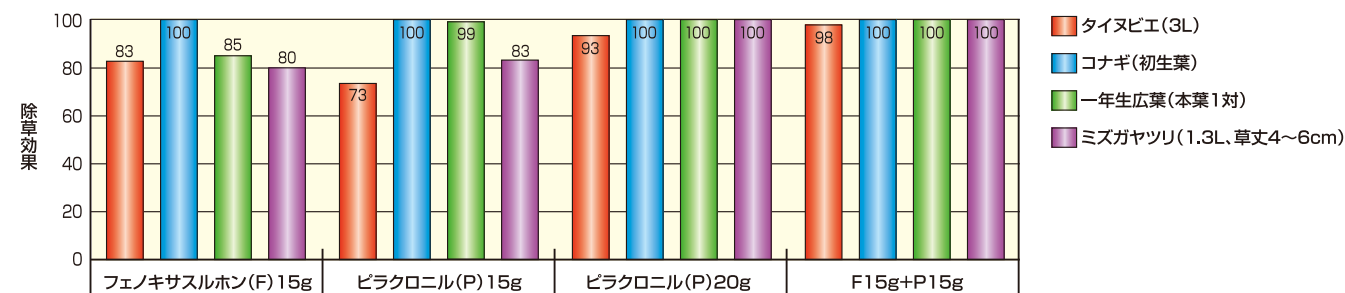
●人畜毒性:普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

試験の種類	供試動物	LD ₅₀ (mg/kg)	
		1キロ粒剤	豆つぶ250・ジャンボ
急性毒性(経口)	ラット♀	>2,000	>2,000
急性毒性(経皮)	ラット♂♀	>2,000	>2,000

●水産動植物に対する影響

試験の種類	供試動物	LC ₅₀ またはEC ₅₀ (mg/ℓ)	
		1キロ粒剤	豆つぶ250・ジャンボ
魚類	コイ	LC ₅₀ :27.2(96hr)	LC ₅₀ :540(96hr)
ミジンコ類	オオミジンコ	EC ₅₀ :16.8(48hr)	EC ₅₀ :200(48hr)
藻類	緑藻	EC ₅₀ :0.251(0~72hr)	EC ₅₀ :0.059(0~72hr)

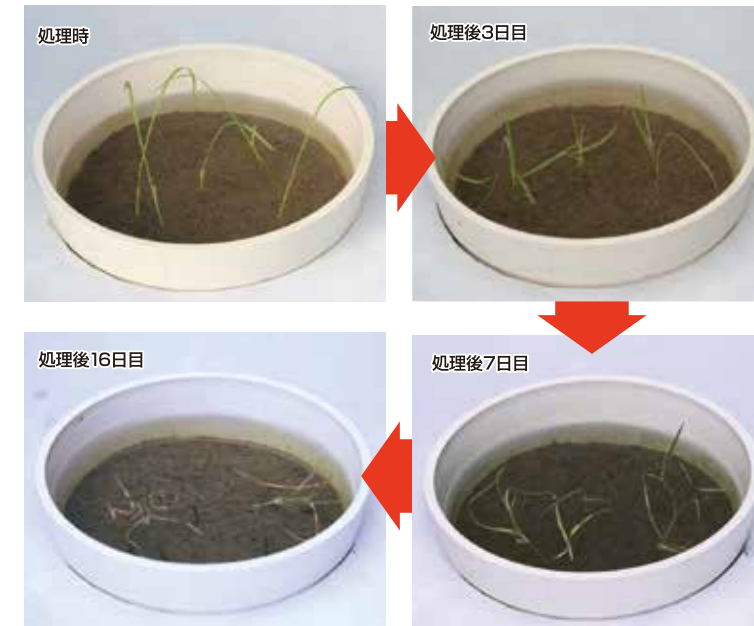
フェノキサスルホン+ピラクロニルの効果(処理後30日目の評価)



試験条件 試験場所: 生物科学研究所 屋外屋根付きベンチ
 試験規模: 1/10,000a プラスチックポット 3反復
 試験時期: 2011年8月~2011年9月
 土壌: 埴塚土(菊川水田土)
 供試薬剤: フェノキサスルホン10%水和剤、ピラクロニル10%水和剤
 処理方法: 水和剤の水希釈液を水面施用
 水管理: 4cm湛水で管理
 調査項目: 観察による指数調査(0:効果なし~100:完全枯死)

ノビエに対する除草効果

2葉期のノビエに本剤を使用した場合、2葉目に褐変、枯れ症状が数日でみられ、その後新しい葉の生育を抑えて枯死に至ります。

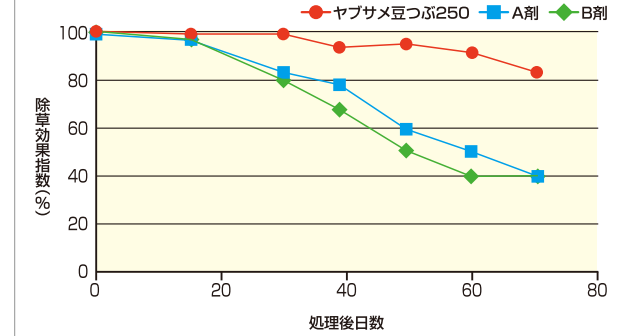


コナギに対する除草効果

2葉期のコナギに本剤を使用した場合、1葉目や2葉目に褐変、枯れ症状が数日でみられ、その後新しい葉の生育を抑えて枯死に至ります。



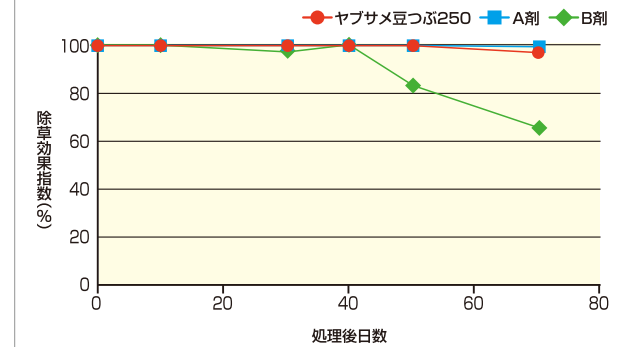
ノビエに対する残効(オーバーフロー条件)



試験条件

試験場所: 静岡県菊川市(自社温室)
 試験時期: 2014年~2015年
 試験規模: 1/5,000aプラスチックポット、2反復
 供試雑草: タイヌビエ
 土壌: 埴塚土
 処理日: 2014年11月18日
 水管理: 処理前に湛水深を4cmとし、処理後1, 2, 3, 5, 7日目に2cmの表面水を除去し(オーバーフローを想定)、その後すぐに入水して湛水深4cmまで水を加えた。
 調査方法: 薬剤処理後0日、15日、29日、39日、50日、60日、70日目に萌芽状態にあるタイヌビエの種子を適量、土壌表面に置床した。播種後約30日目に無処理区比のバイオマスを遠視調査し、0:無処理同等~100:完全除草で評価した。

SU剤抵抗性コナギに対する残効(オーバーフロー条件)



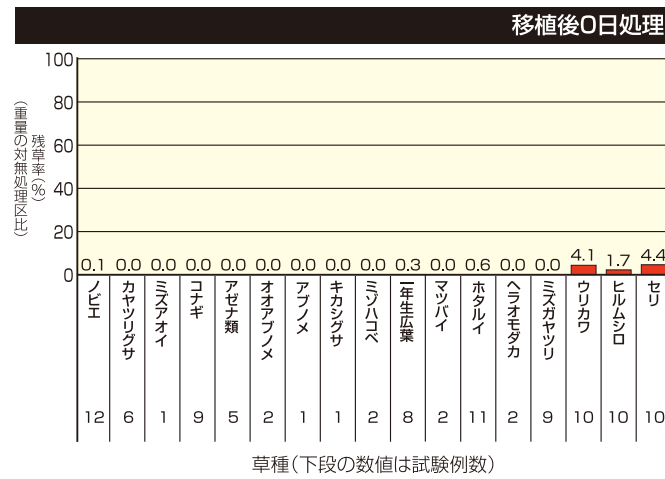
試験条件

試験場所: 静岡県菊川市(自社温室)
 試験時期: 2015年
 試験規模: 1/2,000aプラスチックポット、2反復
 供試雑草: SU剤抵抗性コナギ
 土壌: 埴塚土
 処理日: 2015年1月21日
 水管理: 処理前に湛水深を4cmとし、処理後3, 5, 7, 10日目に2cmの表面水を除去し(オーバーフローを想定)、その後すぐに入水して湛水深4cmまで水を加えた。
 調査方法: 薬剤処理後0日、9日、30日、40日、50日、70日目に萌芽状態にあるSU剤抵抗性コナギ種子を適量、土壌表面に置床した。播種後約30日目に無処理区比のバイオマスを遠視調査し、0:無処理同等~100:完全除草で評価した。

ヤブサメ1キロ粒剤

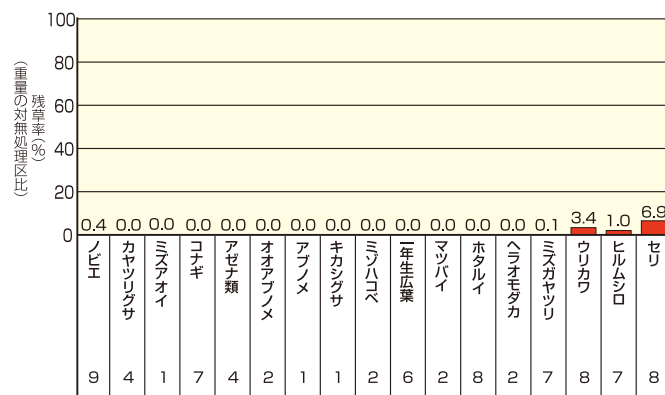
処理時期別除草効果

(日植調委託試験成績より)



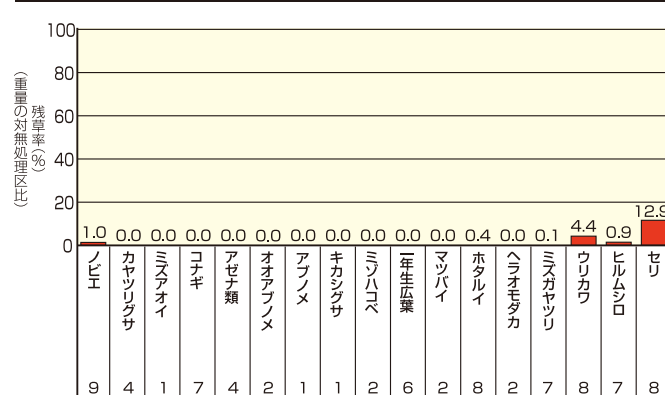
草種(下段の数値は試験例数)

ノビエ2.5葉期処理



草種(下段の数値は試験例数)

ノビエ3葉期処理

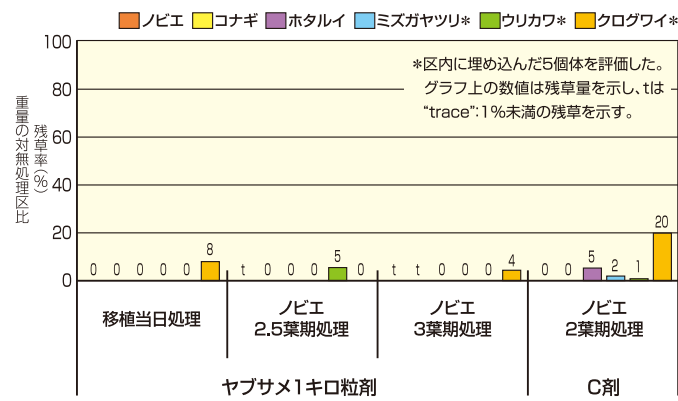


草種(下段の数値は試験例数)

- 平成24年、平成27年の委託試験成績より試験区の草種ごとの残草量を平均値で示しました。
- 一年生雑草や多年生雑草のいずれの草種に対しても高い除草効果が認められました。
- 3葉期のノビエに対しても安定した効果が認められています。
- コナギやアゼナ類、ホタルイなどはSU剤抵抗性個体が認められている試験例を含んでおり、SU剤抵抗性個体群に対しても高い効果が認められています。
- なお、セリについては枯死した茎の重量が含まれているため、他の草種に比べて大きな値となっていますが、卓効を示しております。

圃場適用性試験事例

2015年静岡県農林技術研究所



試験条件

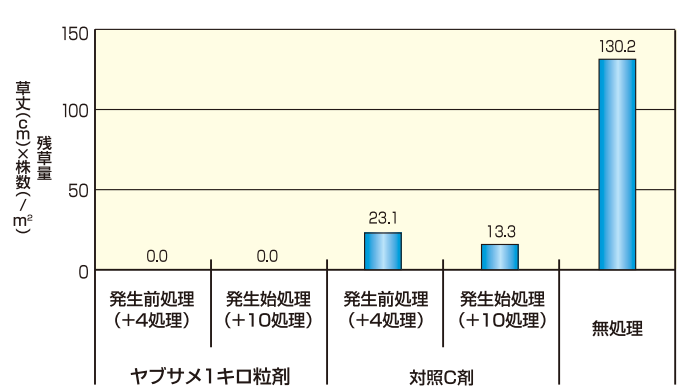
試験場所：静岡県農林技術研究所(静岡県磐田市)
 試験規模：15m² (3m×5m)-2反復
 土壌：埴壤土
 水稻品種：キヌヒカリ
 播代日：2015年5月15日
 移植日：2015年5月21日
 処理時期：移植当日(5/21)
 ノビエ2.5葉期(5/28)
 ノビエ3葉期(5/30)
 (対照剤はノビエ2葉期(5/26))
 調査方法：移植後45日に抜き取り調査を行い残草量を乾燥重で評価した。
 調査日：2015年7月6日(移植後45日)
 なお、水稻に対する影響については、いずれの処理時においても薬害はなかった。

	ノビエ	コナギ	ホタルイ	ミスガヤツリ*	ウリカワ*	クログワイ*
移植当日処理	発生始	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前
ノビエ2.5葉期処理	2.5葉期	2葉期	2葉期	1葉期(4cm)	1葉期	発生始
ノビエ3葉期処理	3.0葉期	2葉期	3葉期	2葉期(7cm)	2葉期	発生盛

オモダカに対する除草効果

2015年植調奈良試験地

残草量



*試験は、各区の草丈(cm)、株数(本/m²)を調査し、残草量=処理区の草丈×株数で示した。

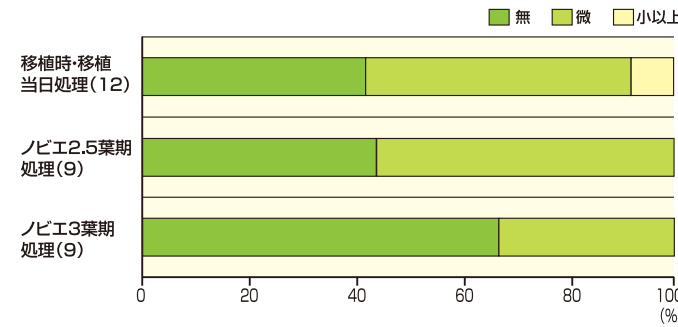
試験条件

試験場所：奈良県橿原市
 試験規模：小区画、2反復
 土壌：壤土
 水稻品種：キヌヒカリ
 播代日：2015年6月10日
 移植日：2015年6月12日
 処理日：発生前 6月16日、発生始 6月22日
 調査方法：移植後39日目に草丈と株数を測定した。

水稻安全性

(日植調委託試験成績より)

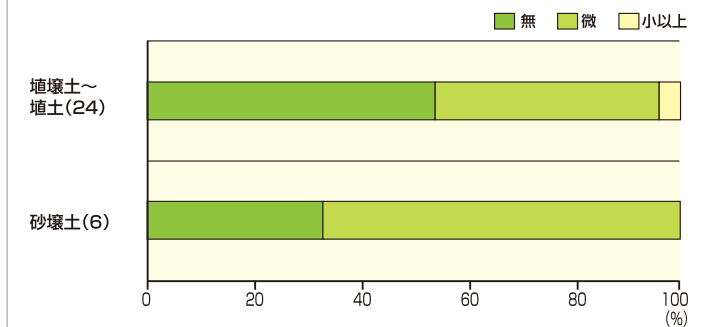
処理時期別薬害



●平成24年、平成27年の委託試験成績より頻度を示し、()内の数値は試験例数を示します。

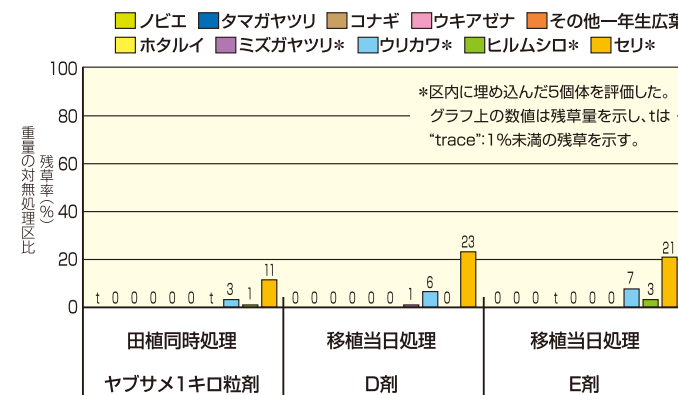
●薬害程度は、無：害徴が認められないもの、微：害徴が認められるが、回復により減収しないと推定されるもの、小：害徴が認められ、減収率5%以下と推定されるもの、中：害徴が認められ、減収率が6~15%と推定されるもの、大：害徴が認められ、減収率16%以上と推定されるものの5段階で判定されます。

土壌条件別薬害



田植同時処理試験事例

2015年植調岡山試験地



試験条件

試験場所：植調岡山試験地(岡山県岡山市)
 試験規模：100m² (3.6m×27.8m)
 土壌：埴壤土
 水稻品種：ヒノヒカリ(稚苗移植)
 播代日：2015年6月10日
 移植日：2015年6月12日
 処理時期：移植時処理
 調査方法：移植後47日目に抜き取り調査を行い、残草量を乾燥重で評価した。
 なお、水稻に対する影響については、微程度の茎数抑制のみみられたものの回復し、実用上問題ないと判断された。

処理時の薬剤	ノビエ	タマガヤツリ	コナギ	ウキアゼナ	他一年生広葉	ホタルイ	ミスガヤツリ*	ウリカワ*	ヒルムシロ*	セリ*
発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	再生前

田植同時処理を行う際の注意点

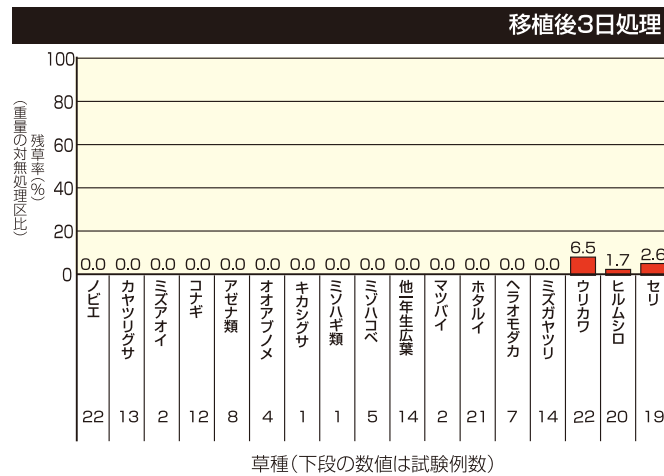
- 代かきから田植までの日数は2~4日程度とし、あまり期間をあげないようにしましょう。
 - 重複散布、過剰散布とならないように散布装置を適正に設定してください。
 - 田植同時処理を行った圃場は、速やかに入水を行ってください(湛水深3~5cm)。
 - 田植後7日間は湛水を保ちましょう(田面が露出する場合は水尻が止まっていることを確認し、なるべく静かに入水を行ってください)。
 - 田植同時処理後の補植は苗の植付を行う際に根が除草剤処理層に接触してしまうため、薬害の原因となりますのでお控えください。
- ※なお、植え穴の戻りが悪い圃場では「田植同時処理」ではなく、移植後活着を確認してから除草剤処理をしましょう。



ヤブサメ豆つぶ250・ジャンボ

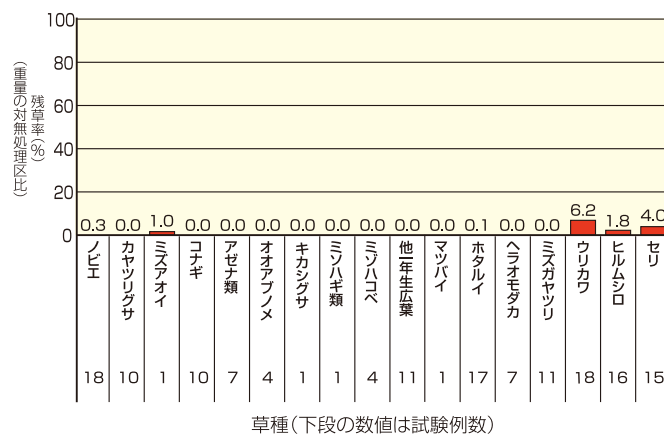
処理時期別除草効果

(日植調委託試験成績より)



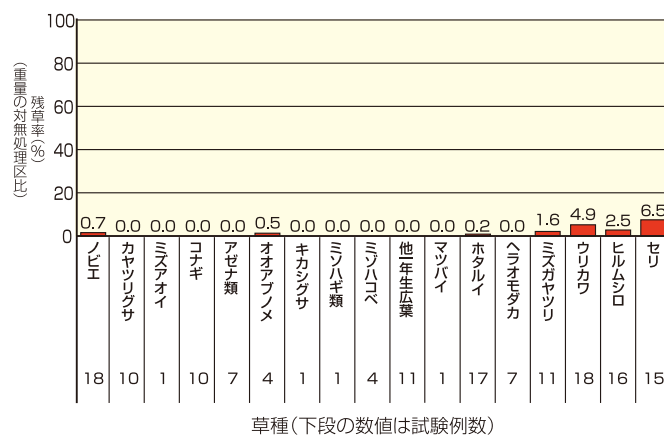
草種(下段の数値は試験例数)

ノビエ2葉期処理



草種(下段の数値は試験例数)

ノビエ2.5葉期処理

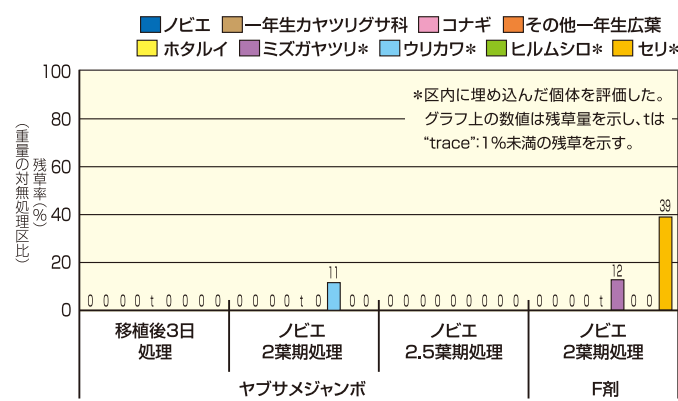


草種(下段の数値は試験例数)

- 平成24年～平成27年の委託試験成績より試験区の草種ごとの残草率を平均値で示しました。
- 一年生雑草や多年生雑草のいずれの草種に対しても高い除草効果が認められました。
- 2.5葉期のノビエに対しても安定した効果が認められています。
- コナギやアゼナ類、ホタルイなどはSU剤抵抗性個体が認められている試験例を含んでおり、SU剤抵抗性個体群に対しても高い効果が認められています。
- なお、セリについては枯死した茎の重量が含まれているため、大きな値となっておりますが、卓効を示しております。

圃場適用性試験(ジャンボ)

2014年植調愛媛試験地

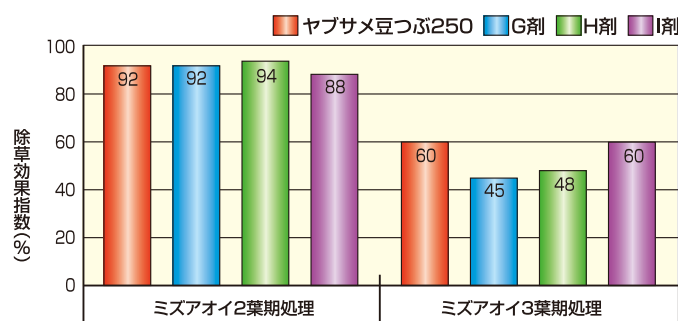


試験条件

試験場所: 愛媛県宇和島市
 試験規模: 5m²(2×2.5)2反復
 土壌: 壇塚土
 水稻品種: コシヒカリ
 植代日: 2014年4月26日
 移植日: 2014年4月29日
 処理日: 移植後3日
 ノビエ2葉期(移植後12日)
 ノビエ2.5葉期(移植後16日)
 調査日: 2014年6月15日(+48)
 調査方法: 移植後48日目に抜き取り調査を行い、残草量を生体重で評価した。
 なお、水稻に対する影響については、移植後3日処理時において微程度の茎数抑制がみられたものの回復し、実用上問題ないと判断された。ノビエ2葉期処理、2.5葉期処理においては薬害はみられなかった。

	ノビエ	コナギ	他一年生広葉	ホタルイ	ミズガヤツリ*	ウリカワ*	ヒルムシロ*	セリ*
処理時の葉齢	移植後3日	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	再生前
	ノビエ2葉期	0.5葉期	0.5葉期	1.5葉期	2.0葉期	1.5葉期	発生期	再生期
	ノビエ2.5葉期	2.5葉期	1.5葉期	1.0葉期	2.2葉期	3.5葉期	2.6葉期	発生期
								生育期

ミズアオイに対する効果(豆つぶ250) 2014年自社圃場試験



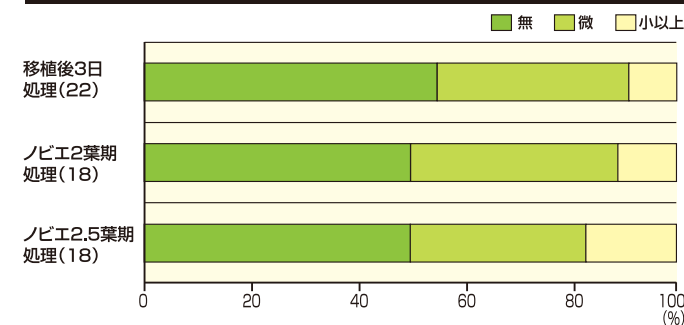
試験条件

試験場所: 宮城県美里町
 試験時期: 2014年
 試験規模: 3m²(1.5m×2m), 2反復
 供試雑草: ミズアオイ(SU剤抵抗性)
 土壌: 壇塚土
 処理時期: 2葉期処理 2014年5月30日
 3葉期処理 2014年6月6日
 調査方法: 処理後約45日目に達観調査を行い、無処理区比のバイオマスを達観調査し、0:無処理同等～100:完全除草で評価した。

水稻安全性(豆つぶ250、ジャンボ)

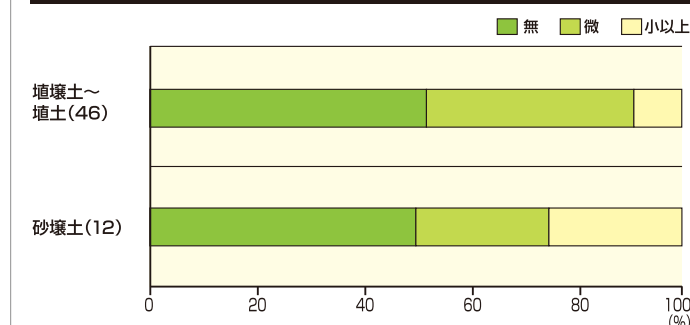
(日植調委託試験成績より)

処理時期別薬害



- 風下処理、シラス土壌や減水深の高い圃場で薬害事例が確認されています。
- 平成24年～平成27年の委託試験成績より頻度を示し、()内の数値は試験例数を示します。
- 薬害程度は、無: 害徴が認められないもの、微: 害徴が認められるが、回復により減収しないと推定されるもの、小: 害徴が認められ、減収率5%以下と推定されるもの、中: 害徴が認められ、減収率が6～15%と推定されるもの、大: 害徴が認められ、減収率16%以上と推定されるものの5段階で判定されます。

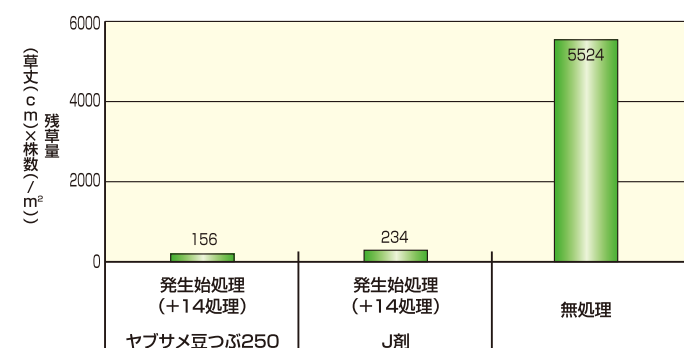
土壌条件別薬害



多年生雑草に対する除草効果

(日植調委託試験成績より)

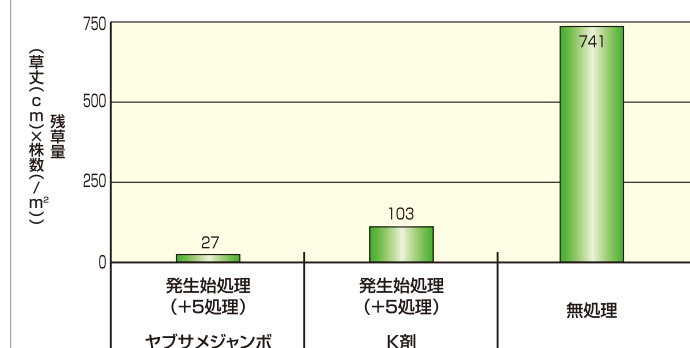
オモダカに対する除草効果(豆つぶ250)



試験条件

試験場所: 北海道夕張郡長沼町
 試験規模: 3m², 2反復
 土壌: 壇塚土
 水稻品種: ほしのゆめ, 稚苗機械移植
 植代日: 2013年5月25日
 移植日: 2013年5月29日
 処理日: 発生前6月1日, 発生始6月12日
 調査方法: 移植後40日目に草丈と株数を測定した。

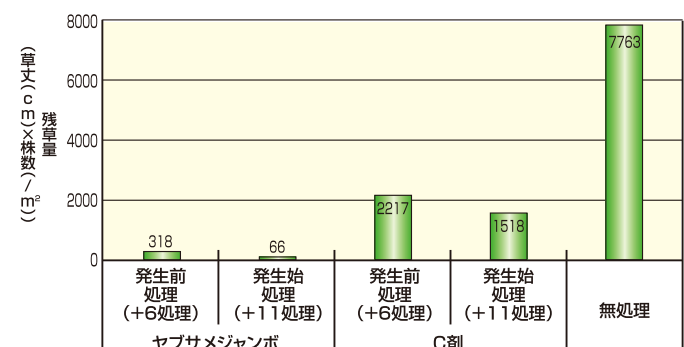
コウキヤガラに対する除草効果(ジャンボ)



試験条件

試験場所: 山口県山口市
 試験規模: 3.6m²(1.8m×2m)・2反復
 土壌: 壇塚土
 水稻品種: 晴るる, 稚苗機械移植
 植代日: 2015年5月29日
 移植日: 2015年6月1日
 処理時期: 発生始6月6日
 調査方法: 移植後44日目に草丈と株数を測定した。

クログワイに対する除草効果(ジャンボ)



試験条件

試験場所: 奈良県橿原市
 試験規模: 小区画, 2反復
 土壌: 壇土
 水稻品種: キヌヒカリ, 中苗移植
 植代日: 2015年6月10日
 移植日: 2015年6月12日
 処理時期: 発生前6月18日, 発生始6月23日
 調査方法: 移植後39日目に草丈と株数を測定した。

*試験は、各区の草丈(cm)、株数(本/m²)を調査し、残草量=処理区の草丈×株数で示した。

